

出題 蜚雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の言葉の（ ）に共通して入る言葉を入れましょう。

座（ ）の銘

（ ）に出るものはいない

## 豆知識 雑学コラム

### 「右」「左」のイメージ

今日は「右」について考えていきましよう。「座右の銘」は常に自分の心に留めておく大切な言葉のことですね。「座右」とは「右に座っている」、「右にある」という意味で「大切な」という意味があります。また、「右に出るものはいない」とは「その人より優れてた人はいない」という意味ですね。こうして、考えると「右」

には「大切」や「優れている」という良いイメージがあることがわかります。一方で、「左」は「左遷」のように悪いイメージがあることがわかります。なぜ、「右」のほうが良く、「左」が悪いイメージがあるのでしょうか。見ていきましよう。

まず、「右」に出るものはいないとは、古代中国の漢の高祖が優れた人物に対して、「彼らの右に出るものはいない」といい、褒めたことが由来といわれています。つまり、右の方が優れているという考え方は中国由来というわけです。

では、なぜ中国では「右の方が優れている」という考え方が生まれたのでしょうか。いろいろな説がありますが、一つの説として、中国の書類の書き方が元となっているというものがあります。中国語の文章は日本語の縦書きと同じように上から下に書いてから、左に改行していくスタイルで書きます。そうすると、身分の高い人から順番に名前を書いていくとき、一番身分の高い人の名前が書類の一番右にくることになりますね。

こうしたことから右にあるものが、左にあるものより優れているという考え方が出てきたようです。

さて、この「右が左より良い」という考え方は時代や場所を通して普遍のものというわけではありません。古代の日本では「左大臣」が「右大臣」より身分が高かったことからわかります。あくまで「座右の銘」と「右に出るものはいない」についてはそういう意味で使われていると考えるようにしまししよう。

## 【解答】